

# 浅草寺病院だより

2019年  
【春号】

2019年4月10日発行  
社会福祉法人浅草寺病院  
東京都台東区浅草2-30-17  
☎ 03-3841-3330

## 理念

観音さまの大慈悲のみこころにそって、  
思いやりの精神のもとにあたためた医療を提供します。



## 新年度を迎えて

事務部長 桐ヶ谷 孝

平成28年4月から浅草寺病院事務部長の職に就かせていただいております桐ヶ谷と申します。珍しい名前なので良く出身を聞かれますが、父が神奈川県逗子出身で、周辺には多い名前です。元々鎌倉や逗子の地形は山や谷が多く、「桐ヶ谷」も谷の一つの名前と聞いております。

当院が位置する浅草は私が好きな「志ん生」の落語にもよく登場し、四季折々の地元の催しは下町の風情を残した歴史のあるものばかりで、その季節になると、ああ浅草で働いているのだと実感いたします。

閑話休題。

今年は元号も令和に変わり、平成と付く最後の新年度を迎えるということになりました。浅草寺病院では昨年ホームページなどで「この街のかかりつけ医がいる」というメッセージを発信してまいりました。またこの4月から小児科を再開することができ、医師が新たに加わった内科の診療も充実してまいります。

当院は病院名に「浅草寺」と付いておりますが、お寺の関係者のためだけでなく浅草にお住いの患者さまに広く開かれた病院です。ちょっとした健康面の相談や台東区の健診などもお受けいただけるほか、大学病院などでは検査を行うまで時間を要するMRIやCTといった検査もそれほどお待たせすることはありません。胃と大腸の内視鏡を1日で実施することも可能です。内視鏡という苦しいイメージがありますが、今では麻酔を使った楽な方法や鼻から入れる内視鏡も選ぶことができます。

浅草にお住いの方々の医療が、浅草エリアの中で完結するよう今後病院として引き続き努力してまいりますので、至らぬ点は多々ございますが、引き続きご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

## 小児科再開のおしらせ

この度、田村英一郎医師を常勤でお迎えし小児科外来の診療を開始致しました。木曜日以外は外来診療を行っておりますのでよろしくお願いいたします。

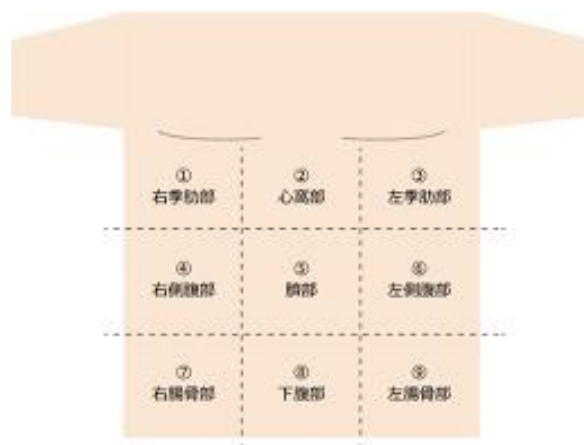


## 新任常勤医師のご紹介

4月より新たに上山勉医師(一般内科・神経内科)、松本拓医師(一般内科・リウマチ科)、岩崎功明医師(一般内科)、松本和之医師(整形外科)が常勤に加わりました。診療体制を充実させ、地域医療により一層貢献してまいります。



腹痛で外来を受診される患者様は非常に多く、その原因は様々です。今回は痛みの場所から予測される腹痛の原因についてお話をしたいと思います。腹痛の患者様の診察で重要なのは触診です。仰向けに寝て頂き軽く膝を曲げた状態で行います。お腹を下図のように 9 分割してそれぞれの部位を圧迫することで腹痛の原因や程度、重症度を予測して参ります。では、図の番号に沿って可能性の高い原因を挙げて参ります。①右季肋部：肝臓及び胆嚢疾患の可能性が高いです。例えば胆石や肝臓がんなどです。②心窩部：胃・十二指腸疾患や膵臓疾患の可能性が高く、胃・十二指腸潰瘍や急性膵炎、膵臓がんなどが挙げられます。また狭心症や心筋梗塞でも同部位の痛みを訴える場合があります。③左季肋部：特異臓器が少なく稀ですが膵臓疾患や大腸疾患などが疑われます。④右側腹部：右腎疾患（腎・尿管結石など）や上行結腸疾患（上行結腸がん、憩室炎など）が挙げられます。⑤臍部：稀ですが小腸疾患や膵疾患などが挙げられます。⑥左側腹部：④とは逆に左腎疾患、下行結腸～S 状結腸疾患などが疑われます。⑦右腸骨部：典型的なのは虫垂炎です。他には上行結腸憩室炎や右鼠経ヘルニアなども挙げられます。⑧下腹部：直腸やS 状結腸、膀胱や子宮疾患などが考えられます。具体的にはS 状結腸・直腸がん、S 状結腸憩室炎、膀胱炎、子宮附属器炎などです。⑨左腸骨部：左鼠経ヘルニアなどが挙げられます。区分をまたいで痛みが認められる場合もありますが、大まかに痛みの部位でこれらの疾患を疑い検査を進めていきます。心配な腹痛が認められる場合は参考にして下さい。



## 療養病棟について

療養病棟 看護師

療養病棟は、急性期の治療が終わり病状安定した後も引き続き医療ケアの必要な患者さまに、ご利用していただく病棟です。

広々としたロビーの窓からは浅草寺本堂や五重塔が望め、年明けの初詣、伝統ある三社祭りの賑わい、夜の灯りに彩られ朱色に浮かび上がるほおずき市というように町の賑わいと共に、都会の中にありながら春は満開の桜、緑鮮やかな新緑、秋の紅葉と自然に囲まれた、静かで穏やかな療養空間を提供しています。

療養病棟では、看護部目標である「安心して安全な質の高い看護の提供」を基に多職種とのチーム医療を推進し、入院から退院まであらゆる場面において、患者さまは勿論ご家族の方に寄り添った看護の提供に取り組んでいます。

よりよい療養環境の一つとしてメディカルケアセットを導入し、入院生活において常に衛生管理・消毒された清潔な品を提供することや、それぞれの患者さまの状態やサイズに合わせた質の良いものを必要なだけ利用すること、そしてベッド周囲のスペースを確保し安全につなげること、入院中の物品持参や洗濯などの負担の軽減を図っています。

歯科衛生士による定期的な口腔ケアの実践や、皮膚トラブルを未然に防ぐベッドマットレスへの対応と皮膚科医師による往診の連携、身だしなみの一つである整髪をすることでその人らしさを大切にしたいと出張散髪を行っています。

また、潤いのある入院生活を過ごせるよう地域ボランティアによるレクリエーションを定期的に開催し、楽器演奏や合唱やフラダンスなどを催し、療養生活におけるリラクゼーションに少しでも繋がるようにしています。